

元祖・船盛 びわこの千松

がんぞ・ふなもり びわこのせんまつ

冬ならではの味を満喫すべし！
日本海から直送の「カニ」



船料理の迫力あるスケールでお馴染み「びわこの千松」。冬場はもちろん、日本海産のカニを使ったコース料理が一番の魅力。旬の代表的な味覚を味わい尽くせること間違いない。食事後に利用できる庭園露天風呂もその魅力の一つ。



滋賀県草津市
新浜町297-1
TEL 077-565-8800
【営業時間】11:30~21:30／無休
<http://www.sennmatsu.co.jp>
【平均予算】10000円
(食事のみ)

滋賀のINGを
CHECK IT OUT!!

口コミ
情幸反
カタログ

滋賀工山印版

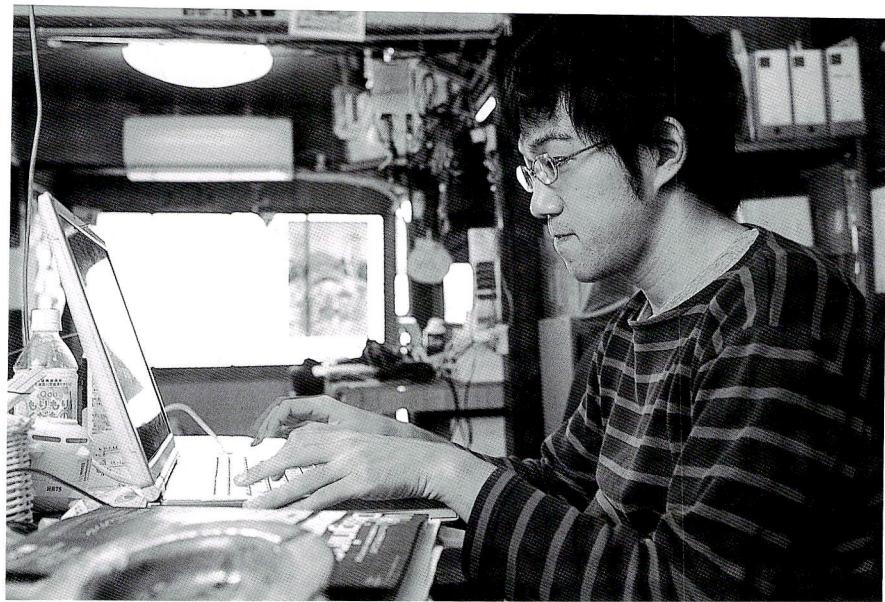
鉄板鍋づくし
てっぱんなべづくし

韓国風のスキヤキ⁈
この香りには、ヤラします…。



寒い冬には、やっぱり鍋。浅い鉄鍋に牛肉を敷き、キャベツ、タマネギ、ニラなどの野菜を盛って秘伝のダシで煮込む。ニンニクとコチュジャンをお好みの量で仕上げて完成！アツアツのピリ辛で湖国の寒さはしのげるゾ！

■滋賀県近江八幡市音羽町26
TEL 0748-31-3292
【営業時間】17:00~24:00 (L.O.23:30) / 無休
【平均予算】2500円



「ヨーロッパ企画」劇団代表

上田誠

UEDA MAKOTO

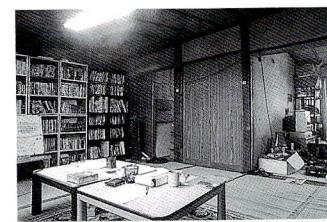
京 TIAN I.D.
キヨーティアンアイディ
The 125th person

【プロフィール】1979年11月4日、京都市生まれ。「98年、入学を機に『同志社小劇場』に入団。同年、劇団内ユニット『ヨーロッパ企画』を旗揚げ。「00年正式に独立し、現在は舞台だけに留まらず、TV・ラジオなどの構成作家としても活躍中。

ここは平成の「ときわ荘」の如き 近い未来の大物たちが集う場



普段の脚本は、プリントアウトしてコピーしてホッチキス止めといった簡単なもの。へたすればデータで一括送信なんてことも。だから、きっと製本された映画の台本を見たときは「嬉しかったですねえ」としみじみ



上田さんのご実家は製菓工場。現在、50年くらい使っていなかったスペースを改装して、事務所を拡大中。2階は「ヨーロッパハウス」と呼ばれる団員たちの溜まり場。取材の日も、制作の井神さんがお昼寝中でした



第18回公演「裏の陣（サマータイムマシン・ブルース）」では、京都→東京→大阪→札幌→福岡の5都市を巡り、福岡公演の大秋葉原には本広監督も登場して大いに盛り上がった。写真は「サマータイムマシン・ブルース2005」

information

待望のラジオ番組レギュラー化！

■「ヨーロッパは夜の9時半」（関西エアリ）
ABCラジオ／毎週日曜 21:30~22:00
パーソナリティ：石田剛太・諏訪雅・上田誠

最新情報はヨーロッパ企画公式HPにて。
<http://www.europe-kikaku.com/>

この夏、映画ファンの注目を浴びた「サマータイムマシン・ブルース」。踊る大捜査線シリーズの本広監督の新作である以上に、我々を驚かせたのが、原作となる芝居を作ったのが同志社大学の劇団サークルから枝分かれした小劇団だということ。その劇団の脚本家が、上田誠さんだ。大学在学時に書かれたこの作品の2003年東京公演を観た本広監督からオファーがあり、今回の映画化が実現した。舞台もしくは映画を観た諸君には解ることだが、とにかく緻密に張られた伏線がラスト10分ほどで怒涛のように繋がっていく展開は、理系の匂いを濃く漂わせている。正直、舞台挨拶で見えた時も「理系のクラスにいそうな」印象を受けた。そんな彼がなぜ演劇？と、浮かんだ疑問をストレートに投げかけてみれば。「高校生の頃はPCでゲーム作ったり、一人でチマチマすることをするのが好きで。豆本とか（笑）と、予想を裏切らない答え。「でも、何か空しさを感じて…」。

そんな時、文化委員の友人に「文化祭の劇の脚本を書いてみないか」と誘われた。いざやってみると、「自分でもビックリするほど楽しく書けた」。その楽しさが忘れられずに、大学に入学すると同時に演劇サークルに入団。そして今に至る。「映画化は本当にありがたい話でした。演劇ばかりやっていると見えないモノってあると思うので、いい勉強になりました」と、クランクアップまでの様々なことを思い返す。インタビューも増え、俄かにハードスケジュールにならうこと以外は、今までと変わらない。そのスタンスがいっそう清々しい。

「他の劇団に比べて、ヨーロッパはちょっと遠巻きに演劇シーンを見てるんです。自分たちのスタンスが明確にあって、そのためには何をすべきなのかを考える」。そのスタンスって？「とにかく、芝居を続けていきたい。金と体力の続く限り。知名度やお金だって、あるに越したことはないけど、何より必要なのは持久力」と言い切るのは、ヨーロッパの面々に絶大なる信頼があるからか。「ヨーロッパはベースです。台本書くときも、ヨーロッパのテイストを大事にしてます」。そのヨーロッパのテイストを「くだらん人ら（笑）」と評する上田さん。「ユルイってよく言われるんですけど、マヌケな人の感じが好きなんですよ」。なるほど、その「マヌケ」には、彼なりの愛情がたっぷり含まれている気がした。その愛情の欠片は、きっと彼らの芝居にちりばめられている。